

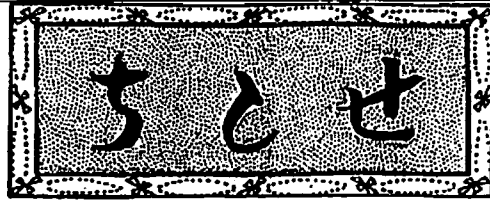
「人と人とのつながりを — 近隣の方たちと話してみませんか」

船橋会の防災について

3・11の災害を教訓にして 現状と課題

あの日、町会の防災担当は個々の対応に追われて、町会防災組織としては情報収集にとどまり、具体的な行動はとりませんでした。地区防災の現状 ①地区の防災対策の「環」としてスタッフ研修を行った。「地震発生後72時間体験プログラム」の模擬体験に参加、自分だけで命を守る時の判断が必要なることを学んだ。②7月に避難所スタッフ運営訓練を船橋小・船橋中にて実施。船橋中は今年が初実施で11月にも再度行った。役所、消防署、消防団、学校関係者、社協、民生、日赤等の参加を得、受付や救急等のやり方、備蓄品、仮設トイレの点検等を再確認した。③地区自主防災訓練は10月15日船橋小で、起震車体験、消火器訓練、AED救急訓練やアルファ米の利用、防災グッズの提供を行った。

課題 ④火災に何時遭遇しても自助ができるように、訓練が必要で、又地区の交流を深める諸行事を企画し「高齢者見守りネットワーク」づくりにも取り組みます。災害時には地区、丸となり対応できる街を目指します。



まちの目が
安全・安心を守っています

船橋地区町会・自治会連合会
船橋地区身辺なまづくり協議会
青少年育成委員会/交通安全委員会/防犯委員会

発行・編集 ミニコミ編集委員会
責任者 藤藤和子
事務局 船橋まちづくりセンター
電話 3482-0341
ファックス 5490-7031
2011. 11 No.92号

震災. その時 3. 11 - そのII 家族(まず自分)そして地域

自分の命は自分で守る。
そしてまちぐるみの助け合い。
和やかな空気が漂う私たちのまち。
「すわ一大事」のときは、皆さんが力を
合わせられるまちを目指すため、町会、
自治会の防災の有り方を伺いました。

今後の課題は「安否確認」と「避難所運営」

千歳台廻沢町会 島津 実(防災部長)

震災当日、千歳台廻沢町会の組織としては日頃の申し合わせにより、自宅待機をしておりました。後日の役員会議で聞いたところ、ほとんどの方が自分の回りの事に対応することで精一杯だったとの事でした。

防災訓練と避難所運営訓練は、年ごとに輪が広がって、自治会、学校協議会、世田谷区防災係、まちづくりセンター、消防署、消防団、その他の方々が参加されて行っております。震災時、当地区では木造住宅の火災の延焼、マンション等の倒壊、ガスタンクへの影響などが心配されます。その時は、避難所での生活が余儀なくされると思います。今後の課題は以下の通りです。

- 1. 震災直後の安否の確認手段。
(家族、友人、同僚、地域の独居老人、障害者の方々)
- 2. 避難所運営をいかにスムーズにするか。
これらの訓練には、地域の事業者(東京電力、東京ガス、プロパン事業者、上下水道業者、清掃事務所、NTT等)の方々にも参加してもらう必要があると思います。

3・11を経験、そして私達は!

希望ヶ丘団地自治会会長 柏倉正勝

3・11の東日本大震災から半年以上になります。その日、希望ヶ丘団地はどうであったのか、高層住宅にあの揺れがどの様であったのか、後日23区自治会協議会で検証されました。当団地は上層階の揺れが相当大きく、家具の転倒や食器やガラスの散乱がありました。その為に当日の夜は自宅で寝る事が出来ない、不安の為に自宅に帰りたいという人が集会所で過ごす事になりました。建物の被害はヒビが入ったガラス窓が多々ありました。

この度の震災で、団地は本格的に対策を考えなくてはと10月2日「希望ヶ丘団地の住民による防災組織の設立について」の会合が初めて開かれ、10月30日、第2回日の会合において「希望ヶ丘団地防災委員会」が設立され、11月23日に、救助テント組立て、豚汁等の炊き出し訓練を行う事となりました。

「人の絆が力を発掘する、支え合いの基盤が人と人の絆」を合い言葉にして活動していきたいと思っております。

東日本大震災を教訓として

船橋産根会会長 吉崎 義記

その時私は、出先のビルの11階から降下するエレベーターの中でした。今までに経験のない揺れと同時に四階で停止、ドアが開きホールへ。隣接ビルも大揺れし、不安顔の人々も見えて恐ろしさに身がすくみました。階段で何とか地下駐車場へ降り、電柱電線が大きく波打つ余震の中帰宅できました。自宅は掛時計の落下程度ですみ、テレビで放映される津波の恐ろしさに釘付けになりました。

「町会内はどうか」気がつくまで相当の時間が過ぎ、何人かの方々と連絡、大過ない様子に安心。この日は情報収集以外の行動なしで町会長として誠に恥ずかしい限りです。机上の「防災組織」はあるが震災時の行動訓練は行っておらず、頭も体も動かぬのは当然です。大震災の強烈な痛みが薄れぬうちに行動できる防災体制づくりが今の私共町会の課題です。

町会内だけでなく商店会や企業の連携協力もお願いし、災害時の対策の話し合いを急ぐ所存です。

「災害時要援護者支援」名簿をもとに安否確認

フレール西経堂自治会 田淵 茂(防災担当)

3・11東京では震度5弱の揺れ、フレール西経堂自治会の方々のエレベーターが停止しました。役員は、閉じこめられている人がいないか各号楼を巡回して確認、大きな余震が続き、広場では不安そうな顔をした母子がしがんで様子を見ていました。

在宅していた役員は第一集会所に集結。世田谷区と連携した「災害時要援護者支援」の名簿をもとに、手分けして安否確認に回りました。留守の方も多く、お会いできた方は幸い皆さん無事で胸をなで下ろしました。巡回した役員は集会所に待機し、しばらく様子を見ました。また、隣接している船橋児童館の職員に手助けを頼み、車椅子の方を階段を使って3階までお連れしました。

携帯電話や一般電話も通じず、集会所前にある災害時使用可能な公衆電話に行列ができるなど、いざという時の通信の脆弱さを思い知り、震災時には、正しい情報を得る事が何よりも大切だと痛感しました。

全棟で停止していたエレベーターは、当日中に一部を除き徐々に復旧しました。

船橋まちづくりセンターでは!

地震発生により、第1次非常配備体制(震度5弱以上)となり指定された職員がセンターへ参集、情報収集及び被害状況の確認活動体制をとりました。その後、2名が夜通し待機、翌日の夕方頃に非常配備体制が解除され待機職員も解散しました。



集会所を開放し避難場所に

船橋4丁目住宅自治会

3月11日、5階建ての住宅は大きく揺れ、特に上層階では棚の上の物が落ち、食器棚が開き、皿、コップ等が割れたりしましたが、大怪我された方もなく大きな被害はなかったようです。ただ、ガスメーターの復旧の時に苦勞した方もおられました。揺れがおさまってから、住宅内の公園に避難、自治会では集会所を開放し、避難場所にしました。高齢者が多く上層階の方は余震のなか、階段を下りるのに苦勞されました。今回の災害時には自治会長、防災役員も外出中、自治会の機能がすぐに働かなかったことが反省するところです。当住宅は高齢者が多いので、さらに大きな災害時には上層階からの避難、負傷者の搬出等にはかなりの困難が予想されます。今後は各家庭での家具の固定、水、食料品等の備蓄の徹底、さらに近隣住宅の方の手助けも必要となりそうです。防災について、会報、掲示板等で知らせっていきます。

周辺の町会・自治会との連携を

世田谷船橋郵政社宅自治会

震災当日は帰宅難民となる住民も多く、まずは社宅内の安否確認からでした。翌朝5時頃帰宅の方もいましたが、幸い全員無事でした。防災備蓄倉庫に今まで置いてなかった保存水を発注したり、電池や食品等の消費期限の確認をしました。消費期限の近づいているものは社宅内で分け合いました。電池はなんと半分近くが6年も経過しており、単一電池を売っている店も少ないため、買い替えに苦勞しました。これまで防災対策としては、初期消火対応の実技見学や講習会にも参加してきました。今後は防災訓練や応急処置講習も積極的に企画していこうと思います。世帯数が少なくなった自治会なので、周辺の町会・自治会とも上手く連携を取り合っていきたいと思えます。

平成23年12月1日より千歳船橋駅周辺が『路上禁煙地区』に指定されます

『船橋1丁目・2丁目・3丁目全域、および経堂4丁目、桜丘1・2丁目、桜丘5丁目の一部の公道上路上禁煙地区となります。』

- 路上禁煙地区は、道路上での喫煙が禁止となる地区です。
- 地区内の道路上では、歩きながら、また立ち止まっていた喫煙も禁止です。
- 自転車に乗車しながらの喫煙も禁止です。

《ひとりのタバコでみんなが迷惑！
喫煙マナーを守りましょう！》

- ★船橋地区町会自治会連合会 ・ 千歳船橋商店街振興組合
 - ★船橋会・船橋地区身近なまちづくり推進協議会
- 詳細については、船橋まちづくりセンターまでお問い合わせ下さい。



二十年ぶり？船橋に「盆踊り」復活

「盆踊りがあったらいいね」93歳と86歳の男女お二人のつぶやきに、町の有志が船橋町会に伝えた。準備期間も企画もないにも拘わらず、町会は主催を受けてくれた。それに呼応するかのように商店会や町内・近隣の多くの組織が共催を受けて下さって、役所も町の人々もそれぞれに力を尽くして下さった。

8月20日夕刻、駅前広場に櫓が組み建てられ、太鼓の音が響いた。ばちを調子よくさばいて叩いて下さったのは、小学生から大人の男女の方々、周りに93歳・86歳の方や幼児も、通りすがりの人々の若いカップルも加わり、ところ狭し人の輪ができた。和気あいあいの賑やかな時が3時間ほど続いた。町中がこの日を待ち望んでいたかのように。



楽しかったね！船橋児童館「子どもバザール」

快晴の11月13日(日)、来年40周年を迎える船橋児童館の子どもバザールが開催された。手作りの小物の店、ゲームの店、地域の方の食べ物のお店などが並び、ステージでは「なんでも自慢コンテスト」で盛り上がった。今年は、東日本大震災被災地支援や、被災者へのメッセージカード作りなどもあり、東松島市を支援する車「復興2号」も参加して協力を呼びかけるなど、被災地との絆を結ぶ一日になった。



ふれあいまつりが開催されました

第22回船橋ふれあいまつりが11月3日に希望丘公園で行われた。船橋地区の町会や自治会が協力して開催する一大イベント。テーマは「ふれあいと信頼、そしてやさしさを」。開会式には保坂区長も挨拶され、舞台発表、フリーマーケット、手づくりコーナー、模擬店が設けられ賑わいを見せた。今年は東日本大震災の復興支援も目的としており、被災地物産店が開かれ、被災地への支援金が多く寄せられました。まつりを通じて人々の絆の大切さを感じさせられた。(H.O)



船橋小学校図書館へどうぞ

船橋小学校遊び場開放運営委員会 図書部

船橋小学校では、地域の皆様に図書館開放しております。絵本もたくさんありますので、お気軽にご利用ください。

◎開 放 日 … 土曜日、日曜日

◎開放時間 … 13:00～16:00

◎対 象 … どなたでも

※中学生以上の方は貸出しもできます。

※区報、校門横掲示板をご覧ください。



地域のお知らせ

- ・ つかどまつり 12/3(土) 塚戸小学校
- ・ ちとふなまつり：冬 12/18(日) 千歳船橋駅前広場
- ・ 音楽くらぶ定期演奏会 12/18(日) 成城ホール (青少年地区委員会)
- ・ めばえまつり 1/22(日) 千歳台小学校
- ・ 塚戸小避難所運営訓練 2/19(日) 塚戸小学校

■■■ご協力ありがとうございました■■■

☆ 社会福祉協議会 会員募集・会費納入
2,156件 1,694,881円
砧地域社会福祉協議会船橋地区

☆ 赤い羽根共同募金
2,336件 1,291,619円
共同募金砧地域協会の船橋地区

☆☆編集後記☆☆

メディアを通して伝えられている未曾有の災害を自分の目と耳で理解したいと思い、晩秋の色濃い岩手に行ってきた。三陸沿岸の漁村で津波を体験したガイドと一緒に視察し、直接話を聞くことが出来た。平穏な港町の被害をまのあたりにし、津波から逃れるには高台移転が一番望ましいとはいえ、平地確保の難しさを、改めて感じた。(K.O)
ミニコミ「ちとせ」にご意見をお聞かせ下さい。

開発について思うこと

船橋小径の会 西川美枝子

大規模な住宅開発が続く船橋で土の道保全を始め丸9年になります。おりしも小径に接して3棟目のマンション計画が浮上、1、2棟目では小径沿いの風景への配慮を求め事業者と協議しました。貫いてきたのは身近なところに自然と触れ合える環境が必要だという、会の活動の根底にある思いです。小径という、船橋に唯一残された自然的環境と風景を引き継ぐために開発事業者は何が出来るのか。



未来を見据え、立場を超えて議論を深めたいと思えます。

この10年で自然観は大きく変わり3月の大震災もありました。経営理念に地球環境への危機意識を持たない企業に未来はないと、あるセミナーで聴きましたが、企業の社会貢献を推し進めるのは、じつは私たち一人一人の意識と行動ではないでしょうか。

小径では町会ははじめ地域の協力を頂き学校とも連携、区の後押しもあり週1回の手入れや清掃を続け、自然との関わりを捉え直すそうとクラフトの取り組みも続けてきました。みんなが少しずつ体力や時間を提供し知恵を出し合ってきたのです。

台風一過の小径。園児たちがやって来ました。「転んじゃった」両手を見せる男の子に「土の道ではうんと転びなさい」。答えた先生の言葉が印象的でした。

